

かっぱが教えてくれたこと

三年 桜井 美月

わたしは二年生の道とくの間にとっても心にのこっている、お話があります。それは、かっぱがこまっている動物に水を分けてあげらるお話です。かっぱはお皿の水がなくなると元気がなくなってしまうのに、水を分けてあげてやさしいなと思いました。そして、もう一つ思っ、たことがあります。水がないと生きていけないのは、人間と同じだと思います。

調べてみると、水とねむることがし、かりできていれよ、たえ食べものがなかつたとしても二、三週間生きていられるそうです。しかし、水を一てきも取らなければ、四、五日でいのちを落としてしまうことになるそうです。人間の体のほとんどは水でできています。ことが分かりました。でもかっぱとはちがって、川の水がけではわたしたち人間の生活はできません。どろや見えない小さな虫などがいる川の水をそのま

まのむとびょう気になってしまいかもしれません。雨水や海水も同じで、しぜんの水を寧ぜんな水にするには、一どぶっとうさせたりるかそうちというものを作ってきたないものをとりのぞかなければいけないそうです。とても大へんな作りょうです。

わたしたちの生活はきれいな水がいつでも使える水道がかかせないです。しぜんの水をきれいな水にかえる大へんな作りょうを、水道のおしごとをしている人たちがしてくれているから、おいしいごはんを作ったり、たっぷりおゆのたまったお風呂に入ったりできるのです。これは本当はとてもせいたくなことだと思えます。せかいには、水道がなくてこまっている国くにもあります。わたしたちくらいの子が学校にも行けずに毎日遠くの川に水くみに行くのです。生きていくためにひつような水をもとめて。

だからわたしは、水のむだづかいをしたくありません。かっぱたちのように大切な水を

ゆずり合い、分け合って大いに使いたいです。
それがSDGSにもつながると思います。水
道のおしごとの人たちに感しゃしながら、遠
くの国にもきれいな水がとどくことをねがっ
て、今日もわたしは大切に水を使います。